

給食だより

地産地消の良さとは？



「いただきます」「ごちそうさま」に込める **感謝** の気持ち

いただきます

ごちそうさまでした

「た食事関係のい
るを食に謝て
走すとの感れ
(馳意ここのら
用る、るへめ
うを回りが々込
そ事りお上人が
ち食走て来たち
は、にし出持つ
は、め味がわ気ま



食事は、生き物の命をいただき、命をつないでいくことです。また、食事が出来るまでに、料理を作る人をはじめ、農作物や家畜を育てる人、魚をとる人、食材を運ぶ人、販売する人など、たくさんの人が関わっています。感謝の気持ちを忘れずに、心を含めてあいさつし、食事を大切にいただきます。



給食を通して地産地消の良さを知ろう！

地産地消とは、地域で生産された農林水産物を、その地域で消費する取組です。学校給食では、地域でとれた「地場産物」を活用することで、地域の産業や食文化への理解を深め、地域への愛着を育むとともに、環境問題や食料自給率といった課題について目を向ける機会にしたいと考えています。

新鮮な旬の味覚を
味わうことができる



作っている人の顔が
わかり、安心感が
得られる



**地域内で資金が還元
され、地域経済の
活性化につながる**



農業が活性化することで農地が保全され、景観の維持や洪水の防止につながる



運ぶ距離が短くなり、
エネルギーやCO₂排出量
が削減でき、環境に優しい



SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献できる



11月の献立紹介

26日(水):木島平献立

今年、調布市は長野県木島平村と姉妹都市になって40周年を迎えました。お米やきのこ、野菜など美味しい食材が豊富なので、木島平産の食材をたくさん使って給食を作ります。

27日(木)・28日(金):ゲゲゲ忍

「ゲゲゲの鬼太郎」の作者である漫画家・水木しげるさんは調布市の名誉市民です。鳥取県境港市で育ち、昭和34年から93歳で亡くなるまでの56年間に調布市で過ごしました。

調布市では水木しげるさんの命日の11月30日を「ゲゲゲ忌」とし、様々な催しを行っています。27日には水木しげるさんの好物だった焼き飯です、スープには「ゲゲゲの鬼太郎」のキャラクターの「一反木綿」に見立てたワンタンを使います。また、28日は「ぬりかべ」に見立てたトーストを取り入れました。



～第46回調布市農業まつり～

日時:令和7年11月15・16日(土・日) 午前10時開始
場所:調布市役所前庭
内容:調布市内でとれた農産物の販売、野菜の袋詰め、
野菜の宝船など



